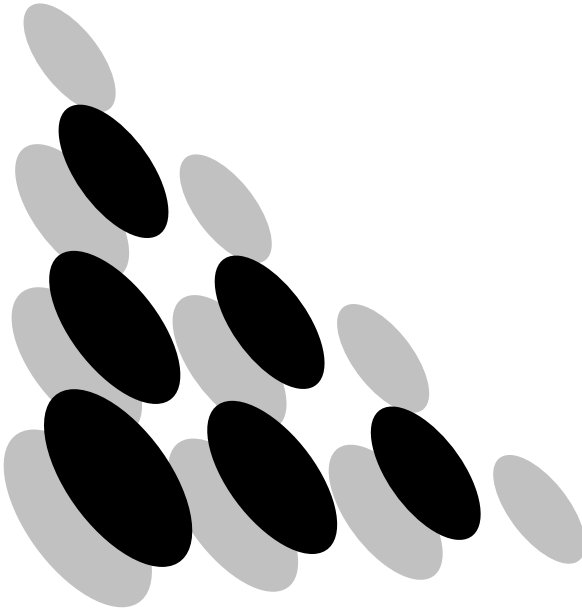


FUJITSU FM SERIES PERSONAL COMPUTER

FMV シリーズ

IDE-RAID カード

取扱説明書



目次

はじめに	3
1 本製品の特徴	5
概要	5
ディスクアレイ (RAID)	6
ディスクアレイの状態	7
ディスクアレイの作成と初期化	7
ディスクアレイの修復 (Rebuild)	8
二重化処理	9
2 FastBuild Utility	10
FastBuild Utility の起動	10
ディスクアレイの作成・初期化 (Auto Setup)	11
ディスクアレイの再構築 (Rebuild Array)	14
ディスクアレイの構成表示 (View Drive Assignments)	16
ディスクアレイの削除 (Delete Array)	17
その他の設定 (Controller Configuration)	18
FastBuild Utility の終了	19
3 Windows 環境での使用	20
FastCheck Monitoring Utility	20
FastTrak Service	27
4 ハードディスクの交換	28
ハードディスクの交換手順	28

はじめに

このたびは、弊社の IDE-RAID カードをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本書は、IDE-RAID カードの使用方を説明しています。

お使いになる前に本書、およびパソコンに添付のマニュアルをよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2001年11月

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

■ 本書の構成

□ 本製品の特徴

IDE-RAID モデルの概要と特徴を説明します。

□ FastBuild Utility

BIOS 上の RAID 構成ツール「FastBuild Utility」について説明します。



□ Windows 環境での使用

Windows 環境での RAID 管理ツール「FastCheck Monitoring Utility」の使用法、その他注意点を説明します。

□ ハードディスクの交換

ハードディスクに故障が検出された場合のハードディスク交換方法について説明します。



本書では、以下の表記・記号を使用しています。





表記	意味
【Enter】	【 】で囲んだ英文は、キーボード上のキーを示します。
【Alt】 + 【M】	複数のキーを同時に押すことを示します。
 POINT	本製品を取り扱う上でのポイント事項です。
 重要	本製品を取り扱う上での重要事項です。これを無視して取り扱うとデータの損害を引き起こす可能性があります。

■安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」とマニュアル類をよくお読みになり、内容をよくご理解のうえ、正しく製品をご使用ください。

なお、本説明書では安全上の注意点を、以下のマークとともに表示しています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

マーク	内容
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品を改造しないでください。火災・感電の原因となります。 ・近くで雷が発生した時は、サーバ本体の電源コードや本カードの外部接続コードを抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては機器破損、火災の原因となります。
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・本カードをサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後で行ってください。電源をいれたままカードの着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります。また感電の原因となります。
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・機器を移動する場合は、必ず機器の外部に接続されているコード類（本製品に接続されているコード類を含む）をすべて外してください。コード類が傷つき火災・感電の原因となること、機器が落ちたり倒れたりしてケガの原因となることがあります。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災の原因となります。 ・ご使用にならない場合は、静電気防止のため付属のカード袋へ入れて保管してください。

Microsoft、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2001

1 本製品の特徴

本章では、IDE-RAID モデルの概要および特徴について説明します。

概要

IDE-RAID モデルでは、本体の PCI スロットに搭載した IDE RAID カードにより、接続された IDE ハードディスクをアレイ構成にします。本モデルでは、RAID1（ミラーリング）のアレイ構成をとることによりハードディスク上のデータを冗長化し、1 台のハードディスクに故障が発生しても継続してシステムを運用可能とするなど信頼性を向上させています。

概略仕様を以下に示します。

名称	IDE RAID カード
カード種類	PCI カード
ホストインターフェース	PCI 33MHz/5V (PCI 2.1 準拠)
I/O インターフェース	Ultra ATA/100 (100MB/s)
I/O チャンネル数	2
接続ディスク数	2 台 (チャンネルあたり 1 台)
サポート RAID レベル	RAID1 (ミラーリング)
サイズ	カード長 : 122mm, カード高 : 72mm

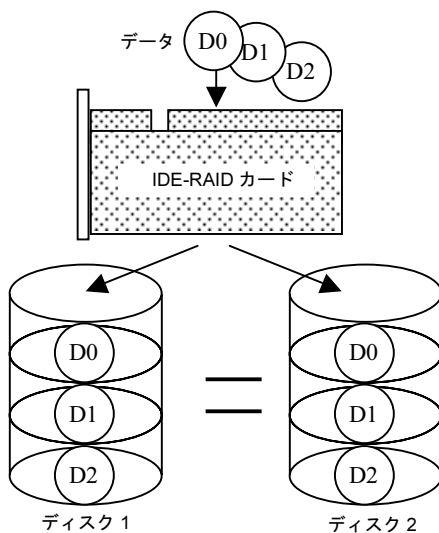
重要

- ▶ IDE-RAID モデルの出荷時の状態では、パソコン起動時に RAID カードがディスクアレイの異常を検出した場合、エラーメッセージが表示されず、「FUJITSU」ロゴ画面で停止する場合があります。
必ずパソコン本体のシステム BIOS で、「FUJITSU」ロゴ画面を表示させない設定に変更し、RAID カードのメッセージを表示させてお使いください。
システム BIOS の設定については、本体マニュアルをご覧ください。
- ▶ ドライバのアップデートについて
下記の富士通パソコン情報サイトから最新のドライバが入手できます。
アップデートの情報をご確認のうえ、必ず最新のドライバをお使いください。
富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ：
<http://www.fmworld.net/biz/>
「サポート&サービス」－「ダウンロード」－「ダウンロード検索」－「FMV デスクトップ」
次の条件で検索してください。
FMV デスクトップ（製品名／型名）：お使いの製品名／型名を選択
OS：お使いの OS 名を選択
カテゴリ：「その他」
検索結果から次のドライバを選択します。
ドライバ名称：「Promise FastTrak100TX2 Driver」

ディスクアレイ (RAID)

ディスクアレイまたは RAID (Redundant Array of Independent Disks) は、RAID コントローラと複数のハードディスクを用いることによって、単体ハードディスクよりも性能および信頼性を向上させるシステムです。各ハードディスクに対するアクセスは RAID コントローラによって制御されます。また、1 台のハードディスクに故障が発生しても、データは失われず継続してシステムを運用することができる、といったいわゆる冗長性を持たせることができます。

ディスクアレイにはドライブへのデータ格納方式によりいくつかの種類があります。本モデルでは、全く同じデータを 2 台のハードディスクに二重化して書き込む RAID1 (ミラーリング) のみをサポートします。これによって 1 台のハードディスクが故障しても、もう一方のハードディスクのデータで継続してシステムを運用することができます。しかしながら、ミラーリングによる冗長性で高信頼性を実現するために、実際に使用できる容量はハードディスク 1 台分の容量となります。



重要

- ▶ 冗長性の有無にかかわらず、万が一に備えてデータのバックアップはできるだけ頻繁に行ってください。
- ▶ 正しい電源切断手順を使用せずに本体電源を切断した場合には、データは保証されません。
- ▶ ディスクアレイは、指定された同容量・同種類の 2 台のハードディスクで構成してください。

ディスクアレイの状態

ディスクアレイには以下の3種類の状態があります。

□ **Functional (正常)**

ディスクアレイが正常に稼動している状態です。

□ **Critical (危機)**

ディスクアレイが1台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動している状態です。故障したハードディスクをできるだけ早く交換し、ディスクアレイをFunctional状態に修復する再構築作業 (Rebuild) を行う必要があります。

□ **Offline (オフライン)**

ディスクアレイが稼動していない状態です。ディスクアレイ中の2台のハードディスクがともに故障した場合に発生します。この場合、ディスクアレイ中のデータは保証されません。

POINT

- ▶ ディスクアレイの状態がCriticalまたはOfflineになった場合、パソコン本体のブザーを鳴らし異常発生を知らせます (FastCheck Monitoring Utility が動作している場合)。(「オプションメニュー」参照)

ディスクアレイの作成と初期化

ディスクアレイを使用する場合、ディスクアレイの作成、およびディスクアレイの初期化処理を行う必要があります。ディスクアレイの作成・初期化手順は「ディスクアレイの作成・初期化 (Auto Setup)」を参照してください。

なお、ミラーリング構成のディスクアレイの初期化処理は、一方のハードディスクから別のハードディスクに全データを複製する二重化処理によって行います。二重化処理については「二重化処理」を参照してください。

重要

- ▶ ディスクアレイの初期化は必ず行ってください。初期化を行わないとOS上から認識されない場合や、あるいはOSがハングアップする場合があります。

ディスクアレイの修復 (Rebuild)

ディスクアレイ中の 1 台のハードディスクが故障しても、ディスクアレイは **Critical** (非冗長) 状態で稼働しますが、ディスクアレイ中のもう 1 台のハードディスクが故障すると、ディスクアレイは **Offline** 状態になってしまいます。したがって、できるだけ早期に **Critical** 状態のディスクアレイを **Functional** 状態に修復する必要があります。

ディスクアレイの修復を行うには、故障したハードディスクの交換と、**再構築 (Rebuild)** と呼ばれるハードディスクを再度、冗長化する作業が必要になります。

故障したハードディスクを新しいハードディスクと交換する手順については、「ハードディスクの交換手順」を参照してください。

ミラーリング構成のディスクアレイの再構築は、正常なハードディスクから交換したハードディスクに全てのデータを複製する二重化処理によって行います。再構築手順については「ディスクアレイの再構築 (Rebuild Array)」、二重化処理については「二重化処理」を参照してください。

なお、ハードディスクの交換および再構築が完了するまでは、ディスクアレイは **Critical** 状態で稼働し続けます。

二重化処理

ディスクアレイの初期化や修復を行う場合には、一方のディスクから別のディスクに全データを複写する二重化処理を行います。二重化処理には以下の2通りの方法があります。

1 FastBuild Utility による二重化処理

FastBuild Utility (→ P.10) により、ディスクアレイを使用する前にハードディスクの二重化を行う方法です。ハードディスク全領域を複写するため、ある程度の時間が必要です。

2 バックグラウンド二重化処理

ディスクアレイの二重化処理をホストからの通常 I/O 処理と並行して実施する方法です。FastBuild Utility 上での二重化処理中に、パソコン本体の再起動、または電源切断によって二重化処理を中断すると、OS 起動後に自動的にバックグラウンドでの二重化処理が実施されます。FastBuild Utility 上での二重化処理の終了を待つ必要はなくなりますが、以下の点に注意してください。

POINT

- ▶ パソコン本体が起動し、OS 上でデバイスドライバが起動された時にバックグラウンド二重化処理が開始（再開）されます。
- ▶ バックグラウンド二重化処理完了前に OS をシャットダウンすると、二重化処理は中断されず。次回再開時（OS 再起動後、デバイスドライバが起動された時）に中断したブロックからバックグラウンド二重化処理を継続します。
- ▶ バックグラウンド二重化処理中は、Functional 状態のディスクアレイと比較して十分な I/O 処理性能が得られません。特にフォーマット性能が非常に低下しますのでご注意ください。バックグラウンド二重化処理中には、OS 上の FastCheck Monitoring Utility の画面上に「再構築中」と表示されます。

重要

- ▶ バックグラウンド二重化処理中は、ディスクアレイが Critical 状態であり冗長ではありません。複写元のハードディスクが故障すると、ディスクアレイは Offline 状態となりディスクアレイへアクセス不能になるとともにデータが失われます。

2 FastBuild Utility

本章では、IDE RAID カードの BIOS 上で動作する FastBuild Utility について説明します。FastBuild Utility は、ディスクアレイ構成の作成・変更などを行うための基本的なユーティリティです。この章をよくお読みになられた上でご使用ください。

FastBuild Utility の起動

パソコン本体の電源を入れた後、以下の画面が表示されている時に【Ctrl】+【F】キーを押すと、FastBuild Utility を起動できます。

```
FastTrakTX2 (tm) BIOS Version x.xx (Build xx)
(c) 1995-2000 Promise Technology, Inc. All rights reserved.

...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild(tm) Utility...
```

FastBuild Utility が正常に起動すると図 2-1 の Main Menu が表示されます。

```
[Main Menu]

Auto Setup ..... [1]
View Drive Assignments ..... [2]
Define Array ..... [3]
Delete Array..... [4]
Rebuild Array..... [5]
Controller Configuration..... [6]
```

図 2-1 : Main Menu

ハードディスクが 1 台も認識できない場合、以下のメッセージが表示されます。本体の電源を切断し、ハードディスクおよび接続ケーブルを確認してください。

```
No Disk is found. Please check the
power and data cable connection.
<Press Any Key to Exit>
```

□ Main Menu でのキー操作

- ・ 数字 (1,2,3,4,5,6) キーを押すと各メニュー項目を選択できます。
- ・ 【ESC】キーを押すと FastBuild Utility を終了できます。(「FastBuild Utility の終了」参照)

ディスクアレイの作成・初期化（Auto Setup）

ディスクアレイを使用する場合、あらかじめディスクアレイを作成し初期化を行う必要があります。以下の手順に従って作業を行ってください。

なお、ディスクアレイの初期化は、一方のハードディスクから他方のハードディスクにデータを複写する二重化処理によって行います。

POINT

- ▶ ディスクアレイを作成・初期化する方法として、より細かな設定が可能な「3. Define Array」もあります。

- 1 **FastBuild Utility** の **Main Menu** から「1. Auto Setup」を選択します。
- 2 既に全てのハードディスクがディスクアレイとして構成されている場合、下記メッセージが表示されます。この場合、ディスクアレイを新規に作成することはできません。何かキーを押して **Main Menu** に戻り「2. View Drive Assignment」でディスクアレイの構成を確認してください。（「ディスクアレイの構成表示（View Drive Assignments）」参照）

No Available Disks!
Any Key to Continue

- 3 ディスクアレイとして構成可能なハードディスクが存在する場合、図 2-2 の表示になります。

[Auto Setup Options Menu]

Optimize Array for :	Performance
Typical Application to use :	DESKTOP

[Array Setup Configuration]

Mode	Stripe
Spare Drive.....	0
Drive(s) Used in Array	2
Array Disk Capacity (size in MB)	xxxxx

図 2-2 : Auto Setup（起動時）

- 4 「Drive(s) Used in Array」に接続されたハードディスクの数が表示されます。「2」と表示されていない場合、ハードディスクが正しく接続されていないか、または接続されたハードディスクに異常がある可能性があります。**[ESC]** キーを押して **Main Menu** に戻り「2. View Drive Assignment」でハードディスクの状態を確認してください。（「ディスクアレイの構成表示 (View Drive Assignments)」参照）
- 5 **[↑]** **[↓]** キーで「Optimize Array for」にカーソルを合わせ、**[Security]** と表示されるまで **[Space]** キー、または **[←]** **[→]** キーを押します。
- 6 正しく選択した場合、図 2-3 の表示になります。

[Auto Setup Options Menu]	
Optimize Array for :	Security
Typical Application to use :	Not Available
[Array Setup Configuration]	
Mode	Mirror
Spare Drive.....	0
Drive(s) Used in Array	2
Array Disk Capacity (size in MB)	xxxxx

図 2-3 : Auto Setup (設定後)

- 7 **[Ctrl]** + **[Y]** キーを押します。
- 8 以下のメッセージが表示され、データの二重化（ディスクアレイの初期化）を行うかどうかを尋ねてきますので **[Y]** キーを押してください。

Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No) Y - Create and Duplicate N - Create Only

 **重要**

- ▶ データの二重化（ディスクアレイの初期化）は必ず行ってください。二重化を行わないと、OS 上から正しく認識できない場合や、一貫性チェックでエラーが検出される場合があります。

- 9 以下のようにディスクアレイを構成するドライブの一覧が表示され、データ複写元のハードディスクを尋ねてきます。

[Please Select A Source Disk]		
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)
1:Mas	ST380021	XXXXX
2:Mas	ST380021	XXXXX

- 10 最上段 (**Channel=1, ID=Master**) のハードディスクに【↑】【↓】キーでカーソルを合わせ、【Enter】を押して複写元ハードディスクを選択します。

- 11 二重化処理開始の確認メッセージが以下のように表示されます。
【Y】キーを押すと二重化処理を開始します。

Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)
Y - Continue, N - Abort

- 12 二重化処理中は以下のように処理状況が表示されます。

Please Wait While Duplicating The Image
■ ■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ 12% Completed

- 13 二重化処理が終了すると以下のメッセージが表示されます。
何かキーを押すとパソコン本体を再起動します。

Disk duplication completed...
Any Key to Reboot the System!

POINT

- ▶ 手順 12 の二重化処理中に【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して強制的にパソコン本体を再起動すると、OS 起動後にバックグラウンドで二重化（初期化）処理を継続できます。（「二重化処理」参照）

ディスクアレイの再構築 (Rebuild Array)

ハードディスクが故障した場合、「ハードディスクの交換手順」に従って故障したハードディスクを交換後、ディスクアレイの再構築を行う必要があります（「ディスクアレイの修復 (Rebuild)」参照）。ディスクアレイの再構築は、以下の手順に従って作業を行ってください。

なお、ディスクアレイの再構築は、既存のハードディスクから新規のハードディスクにデータを複写する二重化処理により行います。

- 1 故障したハードディスクを交換後、本体の電源を入れると起動時に以下の画面が表示されます。

ID	MODE	SIZE	TRACK-MAPPING	STATUS
1 *	1x2 Mirror	xxxxxM	xxx/xxx/xx	Critical

Problem is detected with Array : 1

...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility or

Press <ESC> to continue booting...

- 2 【Ctrl】 + 【F】 キーを押して **FastBuild Utility** を起動します。

- 3 Main Menu の「5. Rebuild Array」を選択します。

- 4 図 2-4 のようにディスクアレイの状態が一覧表示されます。

[Rebuild Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity(MB)	Status
Array 1	Mirror	2	xxxxx	Critical
Array 2	---	---	---	---
Array 3	---	---	---	---
Array 4	---	---	---	---

図 2-4 : Rebuild

- 5 「Array 1」の上で 【Enter】 キーを押します。

- 6 以下のメッセージが表示された場合、交換したハードディスクが正しく動作していない可能性があります。本体電源を切断後、ハードディスクの接続等を確認してください。

Spare disk is not found or has less capacity than the source disk!
<Press Any Key to Continue>

- 7 再構築先のハードディスクを選択して【Enter】キーを押してください。再構築先ハードディスクへの複写、すなわち二重化処理が開始されます。

- 8 二重化処理中は以下のように処理状況が表示されます。

Please Wait While Duplicating The Image
■ ■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ 12% Completed

- 9 二重化処理が終了すると以下のメッセージが表示されます。何かのキーを押すとパソコン本体を再起動します。

Array was recovered....
<Press Any Key to REBOOT>

POINT

- ▶ 手順 8 の複写中に【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して強制的にパソコン本体を再起動すると、OS 起動後にバックグラウンドで二重化(再構築)処理を継続できます。(「二重化処理」参照)

重要

- ▶ 再構築元ハードディスクから正常にデータを読み出せない場合 (ECC によりエラー訂正不可能な場合など)、下記画面を表示しディスクアレイの再構築処理を中断します。この場合、再構築元ハードディスク内のデータが保証できないため、一旦ディスクアレイを再初期化後、添付リカバリ CD から再インストールを行い、バックアップデータを復元する必要があります。

WARNING:
Operation aborted because FastBuild encountered an error. The device which caused the failure is connected as Channel X ID 0 on the FastTrak. The array is in CRITICAL state. Please retry using FastCheck utility to recover all data. Reboot the system by pressing the ENTER KEY.

ディスクアレイの構成表示 (View Drive Assignments)

現在構成されているディスクアレイ情報を表示します。

Main Menu の「2 View Drive Assignments」を選択すると図 2-5 の画面を表示します。

[View Drives Assignments]				
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)	Assignment	Mode
1:Mas	ST380021	xxxxx	Array 1	U5
2:Mas	ST380021	xxxxx	Array 1	U5

図 2-5 : View Drive Assignments

各項目は以下の内容を示しています。

Channel	ハードディスクが接続されているチャンネル番号
ID	ハードディスクの接続先が Master 側か Slave 側かを表示 ※本モデルでは Master 側への接続のみ
Drive Model	ハードディスクのベンダー名、製品名
Capacity	ハードディスクの容量 (MB 単位)
Assignment	ハードディスクが割り当てられたディスクアレイ番号 ディスクアレイに割り当てられていない場合、Free と表示
Mode	ハードディスクの転送モード ※本モデルでは Ultra DMA/100 のため U5 と表示

表示を確認後、【ESC】キーを押すと Main Menu に戻ります。

ディスクアレイの削除 (Delete Array)

現在構成されているディスクアレイを削除します。以下の手順に従って作業を行ってください。

- 1 Main Menu の「4. Delete Array」を選択すると、図 2-6 の画面を表示します。

[Delete Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Dev	Capacity(MB)	Status
Array 1	Mirror	2	XXXX	Functional
Array 2	---	---	----	---
Array 3	---	---	----	---
Array 4	---	---	----	---

図 2-6 : Delete Array

- 2 【↑】【↓】キーを押して削除したいディスクアレイにカーソルを移動後、【Del】キーを押してください。
- 3 以下の確認メッセージが表示されます。

Are you sure you want to delete this array?
Press Ctrl-Y to Delete, or others to abort..

- ・【Ctrl】+【Y】キーを押すと、選択したディスクアレイを削除します。
- ・【Ctrl】+【Y】キー以外を押すと、ディスクアレイの削除を中止します。

- 4 【ESC】キーを押して Main Menu に戻ります。

その他の設定（Controller Configuration）

IDE RAID カードの設定表示・変更を行います。

Main Menu の「6. Controller Configuration」を選択すると図 2-7 の画面を表示します。

[Adapter Configuration – Options]		
Halt On Error :		Enabled
[System Resource Configuration]		
Channel 1	Interrupt : x	I/O Port : xxxx
Channel 2	Interrupt : x	I/O Port : xxxx

図 2-7 : Controller Configuration

各項目は以下の内容を示しています。

□ Adapter Configuration

・ Halt On Error

起動時にディスクアレイの異常を検出した場合、起動処理を一時停止するかどうかを設定します。【Space】キー、または【←】【→】キーを押すと設定を変更できます。（デフォルト：Enabled）

Enabled :

ディスクアレイが Functional 状態でない場合、起動時に下記メッセージを表示し停止します。

ID	MODE	SIZE	TRACK-MAPPING	STATUS
1 *	1x2 Mirror	xxxxxM	xxxx/xxx/xx	Critical

Problem is detected with Array : 1

...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility or

Press <ESC> to continue booting...

- ・ 【Ctrl】 + 【F】 キーを押すと FastBuild Utility を起動します。
- ・ 【Esc】 キーを押すと起動処理を継続します。

Disabled :

ディスクアレイが Functional 状態でない場合、起動時に上記メッセージを約 10 秒間表示し、その後起動処理を継続します。

- System Resource Configuration

Interrupt

各チャンネルに割り当てられた IRQ を示します。

I/O Port

各チャンネルに割り当てられた I/O Port アドレスを示します。

FastBuild Utility の終了

Main Menu から【ESC】キーを押すと、FastBuild Utility を終了できます。
以下のメッセージが表示されます。

System is going to REBOOT!
Are You Sure?
Y - Reboot / Any Key - Back

- 【Y】キーを押すと、FastBuild Utility を終了しシステムを再起動します。
- 【Y】キー以外を押すと、Main Menu に戻ります。

3 Windows 環境での使用

本章では、Windows 環境でディスクアレイの状態を表示するとともに異常発生時にエラー通知を行うための、IDE RAID ユーティリティの使用方法を説明します。本ユーティリティは以下のソフトウェアで構成されています。

1. FastCheck Monitoring Utility
2. FastTrak Service

重要

- ▶ 本製品を正しく運用するために、IDE RAID ユーティリティを必ずインストールしてください。
- ▶ Windows NT4.0 でお使いになる場合、Service Pack 6a 以降が必要です。
- ▶ Windows 2000 でお使いになる場合、Service Pack 2 以降が必要です。

FastCheck Monitoring Utility

FastCheck Monitoring Utility（以下 FastCheck）は、OS 上でディスクアレイの管理を行うためのソフトウェアです。FastCheck はディスクアレイやハードディスク情報の表示、ディスクアレイ同期化・再構築などの機能を持っています。

FastCheck はログオン時に起動され、通常はタスクトレイ上にアイコン化されています。このアイコンをダブルクリックすることで画面上に表示されます。

重要

- ▶ 特に必要のない限り、FastCheck を終了させないでください。

■ アレイメニュー

アレイメニューでは、構成されているディスクアレイの構成・状態が図 3-1 のように表示されます。

また、ディスクアレイの一貫性チェック（シンクロナイズ）・再構築（リビルド）の実行などの指示が行えます。

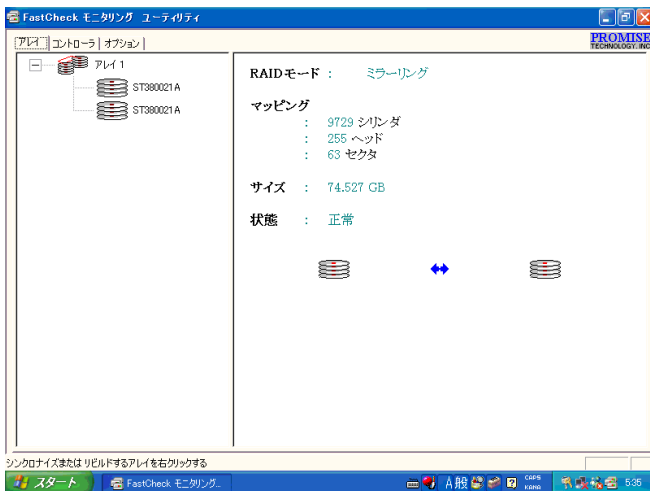


図 3-1: アレイメニュー

□ 構成表示画面（左側）

ディスクアレイおよびディスクアレイを構成するハードディスクがツリー上に表示されます。またハードディスクがオフライン状態の場合は、ハードディスクが「？」付のアイコンで表示されます。

□ 詳細表示画面（右側）

構成表示画面の各ディスクアレイ、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示画面に以下の情報が表示されます。

・ ディスクアレイ

- | | |
|----------|--|
| RAIDモード: | ディスクアレイの種類 |
| マッピング: | ディスクアレイの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数 |
| サイズ: | ディスクアレイの容量（GB 単位） |
| 状態: | ディスクアレイの状態 |
| 正常 | 正常稼働中のディスクアレイ |
| 危機 | 冗長性のない状態で稼働中のディスクアレイ
(初期化・再構築中、またはアレイを構成するハードディスクの 1 台が故障した場合に表示されます) |
| オフライン | 稼働していないディスクアレイ
(アレイを構成する 2 台のハードディスクが故障した場合に表示されません) |

・ハードディスク

状態：	ハードディスクの状態
正常	正常稼働中のハードディスク
正常（再構築中）	初期化または再構築中のハードディスク
オフライン	異常状態で稼働していないハードディスク
フリー	アレイ構成に含まれていないハードディスク
不明	状態が不明なハードディスク (ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます)
S.M.A.R.T 状態：	S.M.A.R.T 機能によるハードディスクの診断結果
サイズ：	ハードディスクサイズ (GB 単位)
場所：	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャンネル番号、ID (Master/Slave)
マッピング：	ハードディスクの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数
タイミング：	ハードディスクの転送モード

□ ポップアップメニュー

構成表示画面上でディスクアレイのアイコンを右クリックすると、ポップアップメニューから以下の操作を実行できます。

常に最前面に表示：	FastCheck を常に最前面に表示するかどうかを設定します
最小化：	FastCheck をタスクトレイにアイコン化します
シンクロナイズ：	ディスクアレイの一貫性チェックを実行します
リビルド：	再構築ウィザードを起動します
概要：	FastCheck のバージョンを表示します
終了：	FastCheck を終了します

■ コントローラメニュー

コントローラメニューでは、ディスクアレイの物理的構成と、コントローラ・チャンネル・ドライブの状態が図 3-2 のように表示されます。

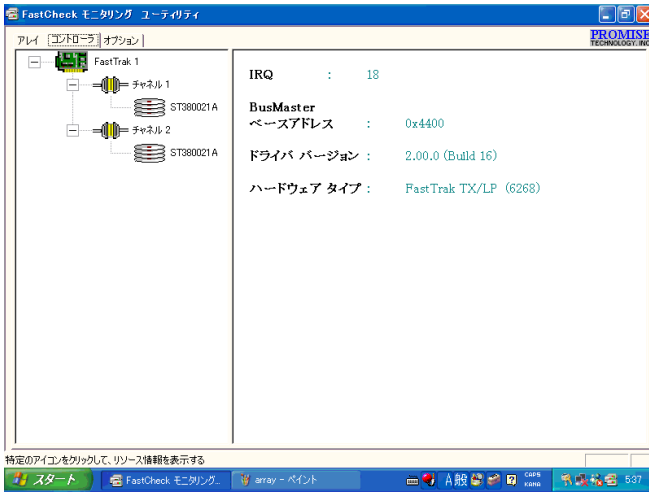


図 3-2 : コントローラメニュー

□ 構成表示画面 (左側)

コントローラ、チャンネル、ドライブがツリー状に表示されます。ドライブがオフライン状態の場合は、ドライブが「×」付のアイコンで表示されます。

□ 詳細表示画面 (右側)

構成表示画面上で各コントローラ、チャンネル、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示画面に以下の情報が表示されます。

・ コントローラ

IRQ :	RAID コントローラに割り当てられた IRQ
Bus Master ベースアドレス :	RAID コントローラに割り当てられたメモリアドレス
ROM ベースアドレス :	BIOS ROM が割り当てられたメモリアドレス
ドライバ バージョン :	デバイスドライバのバージョン
ハードウェア タイプ :	使用中の IDE RAID カード名

・ チャンネル

ベース IO アドレス :	チャンネルに割り当てられた I/O アドレス
---------------	------------------------

・ハードディスク

状態：	ハードディスクの状態
正常	正常稼働中のハードディスク
正常（再構築中）	初期化または再構築中のハードディスク
オフライン	異常状態で稼働していないハードディスク
フリー	アレイ構成に含まれていないハードディスク
不明	状態が不明なハードディスク (ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます)
サイズ：	ハードディスクの容量（GB 単位）
場所：	ハードディスクが接続されている、コントローラ番号、チャンネル番号、ID（Master/Slave）
マッピング：	ハードディスクの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数
タイミング：	ハードディスクの転送モード

■ オプションメニュー

オプションメニューでは、図 3-3 のように動作環境の設定を変更できます。設定変更後、[適用] ボタンをクリックすると設定が有効になります。[リセット] ボタンをクリックすると変更した設定を元に戻すことができます。

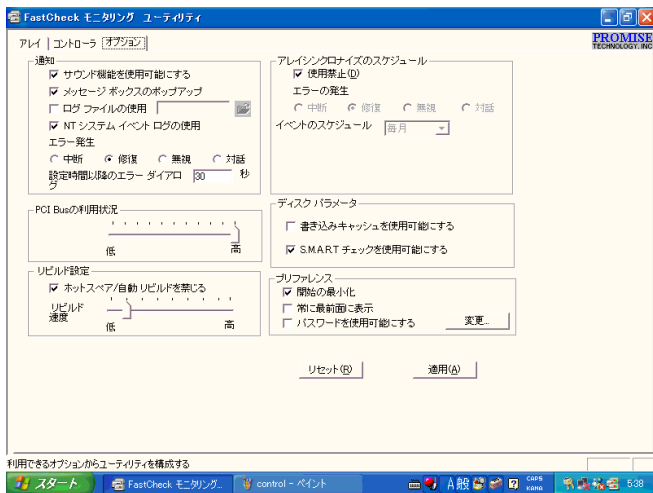


図 3-3：オプションメニュー

□ 通知

サウンド機能を使用可能にする：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイが正常状態でない場合、ブザーを鳴らします。

メッセージボックスのポップアップ：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、メッセージボックスを表示して通知します。

なお、情報レベルのメッセージについては、表示後 10 秒でメッセージボックスを自動的に閉じます。

ログファイルの使用：(デフォルト：チェック無)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、指定したファイルに記録します。

NT システム イベント ログの使用：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、OS のイベントログに記録します。

エラー発生：(デフォルト：修復)

ディスクアレイの一貫性チェック (シンクロナイズ) / 再構築 (リビルド) 処理中にエラーを検出した場合の処置を選択します。

- ・ 中断： エラーを検出した場合、処理を中断します
- ・ 修復： 検出されたエラーを修復して、処理を続行します
- ・ 無視： 検出されたエラーを無視して、処理を続行します
- ・ 対話： エラーを検出した場合、ユーザに対応を尋ねます

設定時間以降のエラー ダイアログ：(デフォルト：30 秒)

ディスクアレイの一貫性チェック (シンクロナイズ) / 再構築 (リビルド) 処理中にエラーを検出した場合に、ユーザに対応を尋ねる待ち時間を設定します。設定時間経過後、上記の「エラー発生」設定で指定した処置が行われた後、処理を継続します。設定可能な値は 1-9999 秒で、9999 の場合はユーザが選択するまで次に進みません。

□ リビルド設定 (Windows XP モデルのみ)

ホットスワップ / 自動再構築を禁じる：(デフォルト：チェック有)

ホットスワップ機能 (本モデルでは未サポート)、自動再構築機能を無効にします。

リビルド速度 (Windows XP モデルのみ)：(デフォルト：左から 2 番目)

通常の I/O アクセスに対する、初期化 / 再構築処理の I/O アクセスを行う割合を設定します。

□ PCI Bus の利用状況 (Windows XP モデルのみ)：(デフォルト：高)

IDE RAID カードが PCI バスを占有する比率を設定します。

□ アレイシンクロナイズのスケジュール

使用禁止：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイ同期化を定期的に行いません。

イベントのスケジュール：

ディスクアレイ同期化の実行間隔を設定します。

- ・ 毎月： 1 月に 1 回、指定日・指定時刻に実行します
- ・ 毎週： 1 週に 1 回、指定曜日・指定時刻に実行します
- ・ 毎日： 1 日に 1 回、指定時刻に実行します
- ・ 時間毎： 指定時間ごとに実行します
- ・ 分ごと： 指定分ごとに実行します

POINT

- ▶ ディスクアレイ上のデータの信頼性を高めるため、「アレイシンクロナイズのスケジュール」を設定して定期的な一貫性チェックを行うことをお勧めします。（「ディスクアレイの一貫性チェック（シンクロナイズ）」参照）

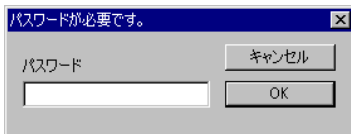
□ ディスク パラメータ

- 書き込みキャッシュを使用可能にする：（デフォルト：チェック無）
ハードディスクのライトキャッシュを有効にします。
- S.M.A.R.T チェックを使用可能にする：（デフォルト：チェック有）
ハードディスクの S.M.A.R.T チェック機能を有効にします。

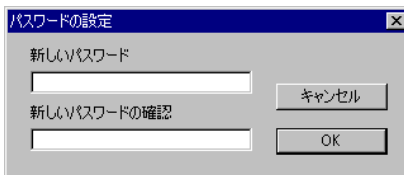
□ プリファレンス

- 開始の最小化：（デフォルト：チェック有）
FastCheck 起動後タスクトレイにアイコン化します。
チェックしていない場合、FastCheck 起動後画面に表示されます。
- 常に最前面に表示：（デフォルト：チェック有）
FastCheck を常に画面の最前面に表示します。
- パスワードを使用可能にする：（デフォルト：チェック無）
パスワードを有効にします。
- 「変更」ボタン：
パスワードを設定／変更します。

パスワードを有効にした場合、FastCheck を開く際、およびパスワードを変更する際に以下のウィンドウが表示されます。設定したパスワードを入力後「OK」をクリックしてください。



また、パスワードを設定／変更する場合は、以下のウィンドウが表示されます。2つのフィールドに同一のパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。設定したパスワードが有効になります。



■ ディスクアレイの一貫性チェック（シンクロナイズ）

ディスクアレイの一貫性チェック（シンクロナイズ）は、ディスクアレイを構成する 2 台のハードディスク上のデータ一貫性（記録されているデータが信頼できるかどうか）を検査するための機能です。

一貫性チェック（シンクロナイズ）機能は、以下の 2 つの方法で実行できます。

1 ディスクアレイの一貫性チェックをすぐに行

指定したディスクアレイに対して一貫性チェックを直ちに実行します。

一貫性チェックを実行する場合は、必ず OS 起動直後に行ってください。

スタンバイからのレジューム後に実行した場合、一貫性チェックが正しく動作しないことがあります。

「アレイメニュー」のポップアップメニューの項目を参照してください。

2 ディスクアレイの一貫性チェックを定期的に実行

設定した間隔でディスクアレイの一貫性チェックを定期的に行います。

「オプションメニュー」の「アレイ同期化のスケジュール」の項を参照し、ディスクアレイの一貫性チェックの実行間隔、開始時間等を設定してください。

なお、ディスクアレイの一貫性チェックを定期的に行う場合、FastCheck が起動されていなくても OS 動作中に一貫性チェックが実行されます。

POINT

▶ ディスクアレイの一貫性チェックは、データ一貫性をチェックするだけでなく、ハードディスクの媒体エラーを自動修正する効果もあります。媒体エラーとして、イベントログやポップアップメッセージで「ECC エラー」が検出された場合は、一貫性チェックによる修正を行ってください。

エラーが多発する場合以外はディスクの交換の必要はありません。

なお、複数の媒体エラーが検出された場合、最初に検出されたエラーのみ修正され、他のエラーが修正されないことがあります。

本問題については修正されたドライバが登録されておりますので、必ず最新のドライバをお使ください（「概要」参照）。

また、故障したハードディスクを交換した場合に、再構築元のディスクに媒体エラーがあると、アレイの再構築が中断され、完了できません（「ディスクアレイの再構築 (Rebuild Array)」参照）。この防止のために、「アレイ同期化のスケジュール」を設定して定期的な一貫性チェックを行い、エラーを修正してください（「オプションメニュー」参照）。

重要

▶ 一貫性チェックの結果、ディスクアレイを構成するハードディスク間にデータの不一致が検出された場合、記録されているデータが保証できません。

この場合、ディスクアレイを再初期化し、信頼できるバックアップデータを復元する必要があります。

FastTrak Service

FastTrak Service は、FastCheck が起動していない場合に、ディスクアレイの異常発生を OS のイベントログに通知するソフトウェアです。

FastTrak Service は OS 起動時に起動し、FastCheck が起動すると停止します。

4 ハードディスクの交換

構成するハードディスクの1台が故障してもディスクアレイは非冗長状態で稼働できますが、もう1台のハードディスクも故障するとディスクアレイへアクセス不能となりデータが失われます。したがって、ハードディスクの故障が検出された場合、できるだけ早期に新しいハードディスクと交換して、ディスクアレイを正常な状態に再構築する必要があります。

本章では、ハードディスクの交換手順について説明します。

ハードディスクの交換手順



- ・ハードディスクを交換する際は、安全のためパソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後で行ってください。電源を入れたままハードディスクの交換を行うと、装置の故障・発煙などが発生する可能性があります、また感電の原因となります。

重要

- ▶ 交換するための新しいハードディスクは、故障したハードディスクと同容量・同種類の、指定されたハードディスクをご用意ください。
- ▶ 本モデル付属の IDE ケーブル以外の IDE ケーブルを接続しないでください。

- 1 OS 上で FastCheck Monitoring Utility の「アレイメニュー」（「アレイメニュー」参照）から、故障したハードディスクのチャンネル番号を確認します。**
- 2 OS のシャットダウンを行い、パソコン本体の電源を切断します。**
- 3 本体添付のハードウェアガイドを参照して、ハードディスクを交換します。**
交換の際に取り外したケーブル類が、交換前に取り付けられていた通りに正しく接続されていることを必ず確認してください。
- 4 パソコン本体の電源を入れます。**
- 5 ディスクアレイの再構築を行います。**
FastBuild Utility を起動し、再構築（Rebuild）を実施します。
詳細は、「ディスクアレイの再構築（Rebuild Array）」を参照してください。

**FMV シリーズ
IDE-RAID カード
取扱説明書**

B5FY-2191-01 Z2-05

発行日 2001年11月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

FUJITSU